

明石工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	国語Ⅳ	
科目基礎情報							
科目番号	0001			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電気情報工学科（電気電子工学コース）			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	野田尚史・森口稔著：日本語を話すトレーニング（ひつじ書房）						
担当教員	清水 泰行						
到達目標							
1）報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 2）作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 3）課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	明確な結論・意見・報告を分かりやすく、論理的・実証的、レイアウトにも優れたレジメに作成できる。			明確な結論・意見・報告を分かりやすく、論理的・実証的なレジメに作成できる。		結論・意見・報告を示す材料は上げられるが構成・レイアウトに不備がある。	
評価項目2	動作・スピード・わかりやすさに優れたプレゼンテーションができ、質問にも的確に答えることができる。			準備されたプレゼンテーションができるが、質問に対して即座に適切な回答ができない。		読み合わせに近いプレゼンテーションとなっている。	
評価項目3	テーマに即した意味のある発言が、簡潔・論理的・実証的にできる。			テーマに合った、意味のある発言だが、冗長となっている。		テーマから外れてはいないが、未整理な発言内容である。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (E)							
教育方法等							
概要	テキストの設問に従った学生の発表と、それに対する質疑応答を中心に授業を進行する。日本語を使用する様々な場面での諸問題を取り上げ、日本語の表現と日本人の発想の特徴について、知識の整理、自発的な考察、適切な実践により習得することを目標とする。						
授業の進め方・方法	講義形式。学生のプレゼンテーション（A4 1 枚のレジメを使用）と質疑応答を中心に、各テーマの理解とプレゼン技術の習得をはかる。 連絡員：善塔正志						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 事前学習を含め、発表と質疑応答に意欲的に取り組み、国語表現に必要な知識と技術を実践的に習得しよう心がけること。なお適宜、資料を配付し、小テストを実施する。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 授業の概要 発表予定の立案			レジメの作成の仕方、プレゼン注意、それぞれの評価基準が理解できる。	
		2週	問い合わせをする トレーニング 1 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理			「問い合わせ」のテーマを理解し、必要な技術（話し方・5W2H・タイミングなど）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。	
		3週	お願いをする トレーニング 3 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理			「お願いする」テーマを理解し、必要な技術（気配り・タイミング・話し方など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。	
		4週	誘う・断る・謝る トレーニング 5 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理			対他意識に関するテーマを理解し、必要な技術（気配り・タイミング・話し方）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。	
		5週	インタビューをする トレーニング 7 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理			「インタビュー」のテーマを理解し、必要な技術（事前準備・対象選択・話し方など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。	
		6週	スピーチをする トレーニング 9 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理			「スピーチ」のテーマを理解し、必要な技術（ふさわしい内容・話し方）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。	
		7週	会議で発言する トレーニング 1 0 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理			「会議での発言」のテーマを理解し、必要な技術（意見整理・決定の仕方・会議進行など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。	
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	分野別課題研究研究 1 受講者に関係の深い事例研究			テーマ別の事例について議論として意見をだすことができる。	
		10週	やさしい日本語 トレーニング 1 2 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理			「やさしい日本語」のテーマを理解し、必要な技術（語選択・異文化理解・マナーなど）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。	
		11週	道や交通の案内をする・手順を説明する トレーニング 6 ・ 1 1 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理			「道や交通の案内をする」「手順を説明する」のテーマを理解し、必要な技術（内容の整理・説明の仕方など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。	
		12週	プレゼンテーション 1 トレーニング 1 3 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理			「研究発表」のテーマを理解し、必要な技術（材料選択・資料作成など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。	

		13週	研究発表 2 トレーニング 1 4 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「研究発表」のテーマを理解し、必要な技術（スライド・質疑応答など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。
		14週	面接 1 トレーニング 1 5 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「面接」のテーマを理解し、必要な技術（質問意図・種類別の基準・自己紹介の仕方など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。
		15週	面接 2 トレーニング 1 5 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「面接」のテーマを理解し、必要な技術（志望理由・質問を通じたPRなど）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0